



# 米子市福市考古資料館通信

第12号

2024年3月



## 令和6年度の企画展のご案内

米子市福市考古資料館では、令和6年度に下記の3回の企画展の開催を予定しています。詳細は、その都度、「広報よなご」や「米子市福市考古資料館のホームページ」に掲載しますので、そちらをご確認ください。いずれの企画展も観覧料は無料ですので、多くの方々のご来館をお待ちしています。

### 企画展1 「遺跡から見つかった動物たちが集まりました。」

- 開催期間 令和6年5月22日（水）～令和6年8月26日（月）
- 展示内容 動物を模した土製品や動物を描いた土器など、遺跡から出土した動物に関わる考古資料を展示し、古代人と動物との関わりなどについて紹介します。

### 企画展2 「縄文時代の米子」 ―豊かな森と海に暮らした米子の縄文人たち―

- 開催期間 令和6年10月17日（木）～令和7年2月10日（月）
- 展示内容 米子の縄文人の生活や活動などの様子を紹介し、併せて、令和4年度に伯耆町根雨原で実施した縄文時代の根雨原土手下夕遺跡の発掘調査の成果を紹介します。

### 企画展3 「小町越城野原第11遺跡の発掘調査成果」

- 開催期間 令和7年2月13日（木）～令和7年3月31日（月）
- 展示内容 令和4年度から令和5年度にかけて、伯耆町小町で実施した小町越城野原第11遺跡の発掘調査成果を紹介します。

当資料館では、常設展や企画展の他に、来館された希望者へ「古代体験」として、火起こし、弓矢体験（以上、無料）、勾玉づくり（有料）を提供していますので、来館の際には、ぜひ体験してみてください。

### 開館のお知らせ

- 開館時間 9：30～17：00（最終入館16：30）
- 観覧料 無 料
- 休館日 毎週火曜日、祝日の翌日、年末年始（12月29日～1月3日）

## 展示品紹介 いし さじ 石 匙（目久美遺跡）

展示室では、目久美遺跡から出土した縄文時代前期（約 7,000～5,500 年前）のサヌカイト製の石匙（いしさじ）を展示しています。

石匙は打製石器の一種で、剥片の両端が打ち砕かれ、つまみ状の突起がつくられています。「匙（さじ）」の名称はその形状に由来し、江戸時代には「天狗の飯七（めしかい）」や「狐の飯七」と呼ばれ、明治には「石匙」という名称が与えられ、現在でもそのまま用語として使われています。石匙は、縄文時代から弥生時代にかけて見られ、北海道や東北地方から多く出土しています。

さて、石匙は何に使った道具なのでしょう。石匙の表面についた細かい傷（使用痕といいます）を顕微鏡で観察した結果から、動物の皮や肉、角や骨の加工、木や蔦（つた）などの加工など、万能ナイフとして用いられたと考えられます。また、突起部に紐（ひも）や膠着材としてアスファルトが付着した例や、石匙を身につけた状態で埋葬された例があることから、首や腰にぶら下げて持ち運んだと考えられています。

なお、エスキモーがかつて石匙と似た形状の石器で動物の皮を剥いていたようです。



目久美遺跡出土の石匙

## 福市遺跡の四季

今年の冬は例年にない暖冬で、寒さに凍えることが少なく、このように毎年暖冬であれば、快適な冬を過ごせると感じています。しかし、暖冬であるとはいえ、1月下旬の大寒波では大雪が降り、史跡公園内では40cmの積雪があり、一面の銀世界となりました。雪景色の公園も趣きがあるのですが、さすがにこれだけ雪が積もれば訪れる人はいませんでした。1月から3月は雨の日が多く、3月には寒の戻りがあり、公園内の桜は平年並みの3月29日に開花しました。



雪景色の福市史跡公園

発行者 米子市福市考古資料館（指定管理者 一財・米子市文化財団）  
住所 〒683-0011 米子市福市461-20番地  
電話・fax 0859-26-3784（同番号）  
休館日 火曜日・祝祭日の翌日・年末年始（12/29～1/3）